

暑い夏がようやく終わり、朝夕は涼しく過ごしやすくなり秋の気配を感じる頃になりましたね。秋から冬にかけては、熱や咳をおこすRSウイルス感染症やインフルエンザ、下痢や嘔吐を伴うウイルス性胃腸炎などが流行しやすい季節です。十分な休息と睡眠をとり、バランスのよい食事を心がけ丈夫な体づくりをしていきましょう。では、RSウイルスとはどんな病気なのでしょうか？

RSウイルス感染症

RSウイルスは風邪の症状を引き起こすウイルスで小児、特に乳幼児に多くみられる呼吸器感染症です。ほぼ2歳までにすべての子どもが感染するといわれています。軽い咳や38～39度の発熱、鼻水鼻づまりなどの風邪に似た症状が数日続きます。

多くは軽症ですみますが、重症化すると細気管支炎や肺炎を起こし咳がひどくなる場合があります。呼吸が苦しくなり、呼吸の際に「ヒューヒュー」「ゼイゼイ」という音がしたり息を吸い込むときに胸の肋骨のあたりがへこむ様子がみられます。このような症状が出たらすぐに病院を受診してください。特に6か月未満の乳児、低出生体重児、心臓に持病がある子どもは重症化しやすく入院が必要になることがあります。

風邪と同様、特効薬はないので鼻水や咳、高熱などつらい症状を和らげる治療を行います。なるべく安静に過ごし、こまめに水分をとるようにしてください。また中耳炎を防ぐため、鼻水が出ていたらこまめに吸引したり鼻をかむようようにしてください。

予防

感染経路は飛沫感染と接触感染です。子ども同士での咳やくしゃみを介して感染しますので、しっかりと手洗い・うがいをすることが重要です。マスクの着用も有効です。



安静室



保育室

各部屋、月齢に合わせた玩具を準備し、お子様が1日楽しく過ごせるようにしています

医師の診察後、

病気の種類によってお部屋を分けています
十分な感染対策をしながらお預かりします



※お預かりする前に、発熱の有無にかかわらず、コロナ抗原検査を実施しています。

【検査結果は15分程度かかります。】

ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。



詳細はIPまたはお電話で

☎ 095-821-8867

長崎市江戸町5-14-4F

ふくだこどもクリニック

